

2021.3.22
発行

No.
46

まひらの保育



発行者/愛媛県保育協議会
会長/合田 史宣
作成者/総務広報部会
編集責任者/阿部 直子

発行所/愛媛県保育協議会
松山市持田町三丁目8番15号
愛媛県社会福祉協議会内

野村保育所
(西予市)

令和2年11月～新野村保育所へ



子どもたちが、元気と笑顔に溢れ、
健やかに成長すると共に、地域の皆
さまへ幸せをお届けすることができる
保育所となりますことを願って…



平成30年7月～豪雨のため仮設保育所

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響がこれほど長く続いているのですから、私たち保育に携わる者の心にも大きな影響を与えていることもまた事実でしょう。苦しいことがあれば、どうか愛媛県保育協議会に意見をお寄せください。そして、子どもたちの様子もお知らせ下さい。このような状況だからこそ、気持ちを共有することが大切です。保育が一日も早く正常に戻ることを願っています。



「保育関係者みんなで
立ち向かいましよう。」

愛媛県保育協議会 会長 合田 史宣

新型コロナウイルス感染症の影響がいつまで続くかわからない状況で、保育に関わる人たちの心にも暗い影を落としているかもしれません。

いつ感染するかわからないということは、耐えがたい苦痛です。私たち大人は、こうした状況を環境として受け入れ、心配したり苦勞したりしています。また、子どもたちにとっては、保育者が環境の一部です。私たちがいつもと違った暗い表情だと、子どもたちにとって悪い環境になってしまいます。子どもの最善の利益を守るということは、保育環境をより良くすることだと思います。できるだけ保育関係者のマイナスの心の状態が子どもたちに影響することは避けなければなりません。

令和2年度の私たちの取り組み

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、eラーニングで研修を実施しました。研修会に参加された方々の感想をご紹介します。

保育士等キャリアアップ研修「①乳児保育」

「①乳児保育」を受講して

(八幡浜市)保内保育所 菊池 萌

今回の研修では、日々の保育を振り返ったり、事例内容と普段見ている子どもたちの姿とを照らし合わせたりしながら、乳児保育を行う上で大切なことをたくさん学ぶことができました。その中でも印象的だったのが、「保育には『温かいまなざし』が重要である」ということです。ここで言う『温かいまなざし』とは、子どもが困ったときにすぐに助けに行けるよう見守ることではありません。困った時、立ち止まった時、その先で「子どもたちは何をみて、何を感じているのだろう、何をやりたいのだろう」と、思い込みや決めつけではなく、温かく受容的・応答的なまなざしが、子どもの心をのびやかに育むということです。そして、子どもの行動の一つひとつにしっかりと意味があり、共感していくことが成長のために大切であると感じました。

目を輝かせて喜んだり、体いっぱい嬉しさを表現したり、毎日がいろいろな発見でいっぱいの子どもたちと共に学び、わかった気になる保育者から、わかってい続けた保育者になるよう、私自身も楽しんで保育に励みたいと思います。

保育士等キャリアアップ研修「②幼児教育」

「②幼児教育」を受講して

(松野町)虹の森まつの保育園 三好 萌

「子ども」って「幼児」って、どんな存在だろうか？ 今回の研修では、このような自身の子ども観を改めて見直すことができました。

「②幼児教育」では、幼児教育の意義や指導計画について、実践例から学ぶ環境構成の大切さや保幼小の連携等、現在の保育を取り巻くことについて広く学ぶことができました。その中でも特に心に残ったのが、保育士の持つ子ども観の大切さです。子どもを未熟で無知な存在とするのか、有能で豊饒な存在とするのか、その視点の持ち方によって、子どもたちの違った姿が見えてくるということ、そしてその見え方によって保育者のかかわり方が変わるということを学びました。

日々の保育の中ではつい時間に追われてしまいがちですが、ふと立ち止まり、子どもの声に耳を傾け、子どもの思いを受け止めたり想像したりすること、それがよりよい保育への第一歩になるのだと感じました。今回の研修で学んだことを胸に留め、日々自身の子ども観を見直ししながら保育をしていきたいと思えます。



保育士等キャリアアップ研修「③障がい児保育」

「③障がい児保育」を受講して

(伊方町)三崎保育所 森元 俊介

「③障がい児保育」を受講して、障害とは何かを深く考えていく必要があると思いました。「皆が経験しているもの」という考え方に多少の抵抗を持ちながらも、保育者として子どもたちを、どのようなまなざしで見えていくか学ぶことができました。まだまだ、「評価のまなざし」で子どもたちを見ているところもあり、少数を多数に合わせようとしている場合が多いため、色々なことを考えながら、「みんなが平等な保育」ができるよう努めていきたいと思えます。そのためには、まず大人が多様性を受け入れられるようになることが大切なのだと思います。私の中には区別という考えが強くあるように思えます。色々な姿を受け入れようという気持ちはあるのですが、やはり「良い子」を求めてしまっています。

もっと個人の気持ちを大切にしていって、本当に自由に伸び伸びとした保育ができるよう努めたいと思いました。

色々なことを学ばせてもらい、今までの保育を見直すことができて本当に良かったと思います。これからは、みんなが過ごしやすい環境を考え、より生活や遊びが充実するよう、他の職員と一緒に努めていきたいと思えます。



「④食育・アレルギー対応」を受講して

(四国中央市)ひまわりハッピー保育園 森實 由美

今回は、調理員の目線でこの研修を受講しました。毎日、給食室で業務に携わっているため、園児との関わりは少ないのですが、園児一人ひとりの個性や特徴を理解した上で給食の提供ができるよう心掛けています。

この研修から主に学んだこととして、子どもの食欲・摂食行動・成長・発達パターンには個性があるため、画一的な進め方にならないようにする。地域の食文化・家庭の食習慣を考慮した無理のない離乳食の進め方、離乳食の内容や量を子どもの状況に合わせて進めていく。食を通して、保護者が子どもとの関わりに自信が持てるよう支援する。これらが食育支援に必要であることを学びました。

そのためには、子どもたちの発達をよく見て担任、保育者、調理員、栄養士が常に共有する必要があります。保育関係者が子どもの食べ方を観察した内容を給食関係者に伝えたり、給食関係者が子どもと接する時間を作ったりするなど、職員間で情報を共有することが望ましく、子どもの日々の食生活を共有することは、家庭の食生活を見直すきっかけとなり、保護者支援にも役立つということをお忘れず、今日学んだ事を今後の業務に役立てていきたいと思っています。

「⑤保健衛生・安全対策」を受講して

(四国中央市)乳児保育所こころ 進藤 瑞恵

衛生管理の講義では、様々な感染症の予防や対策を学びました。乳幼児期は、衛生対策を十分に行うことは難しく、感染症にもかかりやすい。また、重症化しやすい特性もあるため、保育士(大人)からの適切な援助や配慮が必要となる。基本的な手洗いや消毒を丁寧に行うとともに、感染症予防には予防接種が効果的であると改めて感じました。また、日々の衛生管理や掃除がしっかりとできているか見直すきっかけとなりました。正しい感染症対策を身につけ、保護者を含めた園全体で共通理解し、感染拡大防止に努めていきたいと思っています。

安全対策の講義では、ガイドラインを読み、それに添った保育をすることが大切で、実行したことを正しく記録することも重要であると学びました。重大事故には職員間のコミュニケーションエラーが必ず存在し、事故原因の多くは目に見えないため、保育中の不安全行動・不安全状態を見つけ、確認し合い、職員間で共有することが最も効果的な事故防止策であると学びました。職員間で安全への意識をお互いに高めあえるようコミュニケーションの訓練を日々積み重ね、正しい想定力を身につけていきたいと思っています。



「⑥保護者支援・子育て支援」を受講して

(鬼北町)近永保育所 清永 由佳

キャリアアップ研修「⑥保護者支援・子育て支援」を受講して、講義の中に「子どもに関わる全ての活動において、『子どもの最善の利益』が第一義的に考慮される」という言葉が出てきました。「子どもの最善の利益」は何よりも重要であり保証されなければなりません。そのためには、子どもと保護者をセットでとらえて共に支援し、保護者を支援する際には、保護者自身がどうしたいと思っているか、願いや意向を十分に聞くことが大切だということ学びました。



これまでの私の支援を振り返ると、自分の価値観を押し付けていたのではないかと反省する点もありました。今後は、まず保護者のありのままの姿を受け止め、その声に十分耳を傾け、思いを尊重した支援を心掛けていきたいと思っています。

また、保育所には地域の子育て支援の拠点として地域で子育てをしている全ての人に対しての支援が求められており、その役割の重要性を再確認しました。地域とのつながりを大切にし、地域でどのような事業が行われ、それをどのように利用できるかを把握しておくことが支援につながります。今後も地域の実情を理解し、地域における保育所の役割を果たせるよう努力したいです。

令和2年度教育・保育施設長研修会

「受講者の声から抜粋」

今年度園長となり、戸惑うことが多い中で、リーダーとして大切なことを細かく説明していただき、大変勉強になった。自己成長プログラムでは、自分では気づかなかった結果が出て反省する点もあり、今後意識していきたいと思った。

・園長のするべき仕事、新任職員への声かけ、かわり方など、保育士養成校の生徒の気持ち等を交えた話を聞けて大変参考になった。講演は聞き取りやすく、エラーニングでも問題なかった。

昔と比べたり、こうあるべきという思考から抜け出せなかったりする自分があるが、どうすれば今にマッチングするか考えることが大切だと感じた。私も周囲の人に助けられ成長してきたことを忘れないようにしたい。

・まずは自分のことをよく知ること、そして、リーダーとしての役目や働きやすい職場環境を作るためのサポート等、改めて考える良い機会となった。「言葉と声」を大切に、日々過ごしていきたい。

・園長自身が学ぶ姿勢を大切に」という言葉が心に残った。そうした姿勢を示していけば、おのずと周りの職員も素直に指導したことを吸収できると思う。常に自己を振り返りながら、衝動的な怒りに任せて行動してはいけないこと、「怒りを感じたら6秒やり過ぎす」ことを念頭に、職員の育成や成長のために適切な指導をしていきたい。

保育士等キャリアアップ研修「⑦マネジメント研修」

「⑦マネジメント研修」を受講して

(西予市)三瓶保育園 楠 千夏

今回私の中でとても印象深かった講座が「保育施設における子どもの人権」です。特に「正しいしつけ」についての話が印象深く心に残っています。ネグレクトや児童虐待が増えている中で、正しいしつけを知らない大人が多く暴力や暴言での間違っただしつけをしているため、このような問題が起きることを知りました。

しつけとは、ミシンのしつけ糸からとられた言葉で、布と布を補助するための支えとなり、最後には糸を抜き、跡・形を残すことなく生地を綺麗に仕上げるための大切な役割をしているそうです。大人も子どもに対してしつけ糸のように傍で成長を支え、見守りながら正しい方向へ導く存在となり、跡・形を残さない正しいしつけが大切であることを学びました。

また、暴力や暴言により心の傷やあざが残る間違っただしつけをなくすことで、ネグレクトや児童虐待などを減らしていくことができると思いました。

今回の研修で、保育者として虐待防止や保護者支援などは何ができるかを考えたり、保育のあり方を見つめ直したりする良い機会となりました。学んだことを生かして当園の保育目標である「げんき・ゆうき・やるき・こんき・すき」が育った子どもへと導いていくことができる保育者になりたいと思います。

保育士等キャリアアップ研修「⑧保育実践研修」

「⑧保育実践研修」を受講して

(今治市)乃万保育所 上田 可菜

保育士がどのように環境を設定し、どのように子どもたちと関わっていくかということを学びました。

子どもが「育つ」ためには、遊び込むことが大切です。それは、保育士主導のただ設定されたものではなく、保育士の設定により子どもが「ついやってしまいたくなるような遊び」であることが重要だとわかりました。楽しいと思っただけ繰り返す遊びだと、子どもの経験値が上がりに、子ども自身が考えて遊べるようになるということです。

しかし、禁止・制約が多くては遊び込むことは難しくなります。そのような時は、全職員で安全について共通認識を持ち、傍で見守ることで、安心して遊び込むことができるようになります。

つまり保育とは、行事が目的ではなく、遊ぶことそのものが目的であるということです。「楽しく体を動かすから運動をしたくなる。」「楽しく自然と触れ合うから制作がしたくなる。」「楽しく声を出すから歌いたくなる。」「これらのことを意識しながら、今後の保育に生かしていきたいと思えます。



～西日本豪雨を経験して～

(鬼北町)小松保育所 都築 美恵子

鬼北町の保育所は、7園中3園が土砂災害警戒区域にあります。

平成30年7月7日夜中、町内に大雨警報が発令され、早朝、土砂災害警戒情報が発令されました。

私は、当時勤務していた保育所が土砂災害警戒区域にあったため、登園自粛の連絡と、家庭保育ができない園児を公民館で預かるため、早朝に車で40分程かかる園に向かって家を出ました。

途中から雨が激しくなり、道路は山から流れ出た大量の水で覆われ、車は川の中を進んでいるようでした。川は今にも氾濫しそうに見え、長年勤めてきましたがそのようなことは初めてで、車ごと流されてしまうのではないかととても怖かったです。何とか保育所に到着し、先に出勤していた地元の職員と共に登園自粛の確認等を行いました。このような状況の中、職員が出勤して子どもを預かることの危険、子どもを送迎する保護者の危険を強く感じました。

西日本豪雨が発生した平成30年当時、鬼北町の保育所では警報が発令されても子どもを預かることになっており、土砂災害警戒情報が発令された場合は、保育時間内であれば子どもと一緒に公民館などの指定避難場所に避難し、開所時間前であれば登園自粛ができない子どもを避難場所で受け入れることになっていました。

～西日本豪雨時の様子～



西日本豪雨をきっかけに、鬼北町では保育所の運営や避難の方法を見直し、大雨・洪水・暴風等の警報が発令された場合は原則休所、特別警報が発令された場合は休所としました。また、マチコミメールを導入し、保護者への保育所の休所や再開の連絡がスムーズにできるようにしました。

近年、毎年のように日本中のどこかで災害が起こり、大きな被害をもたらしています。警報が発令され保育所を休所にしても何も被害がなくすむことも多いですが、万が一の場合を想定して、命の安全を最優先した避難の仕方や保育所の運営を考えていく必要があります。保護者が勤務する職場の理解など、協力体制の整備も必要だと感じます。保育所は、土砂災害や洪水の危険のない安全な場所に建て、地震などの災害に強い建物であることも必要だと思いました。

「働き続けやすい職場環境について」

1 【調査目的】

本会調査研究部会では、働き続けやすい職場環境について研究することを目的に、現場での経験年数が3年目までの新任職員を対象に調査を行った。

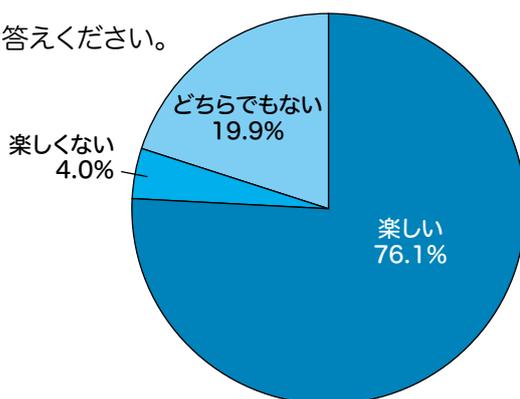
2 調査対象&サンプル数

問1 令和2年11月1日現在の情報をお答えください。(複数回答不可)

①性別		②年齢		③現場での経験年数		④勤務する職場の設置区分		⑤雇用形態		⑥担当について	
男性	12	20代	291	1年目	122	公立	165	正規	250	一人担任	51
女性	314	30代	21	2年目	107	公設民営	7	非正規	76	複数担任	253
		40代	14	3年目	97	私立	154			加配保育士	10
										フリー	12
合計(名)	326	合計(名)	326	合計(名)	326	合計(名)	326	合計(名)	326	合計(名)	326

3 アンケート結果

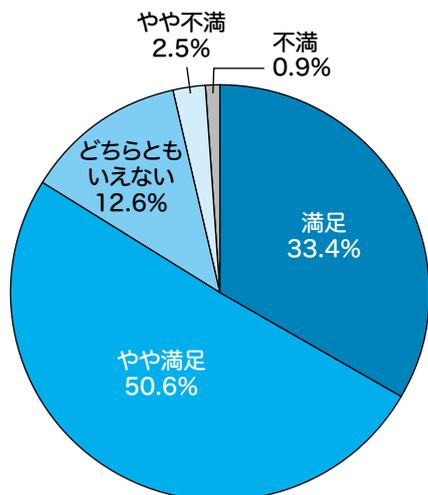
問2 現在の仕事についてお答えください。
(複数回答不可)



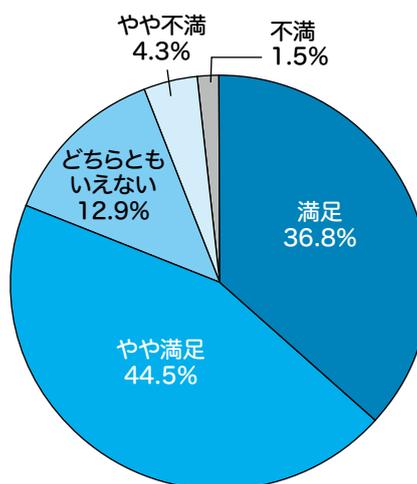
問3 職場に対する満足度についてお答えください。(複数回答不可)

「やりがい」や「職場の方針」、「設備」、「人間関係」、「休暇の取得状況」についてそれぞれ60~80%程度の新任職員が満足している。しかしながら、「収入」に対する満足度には差が見られ、他の項目と比較すると不満を感じている職員が多いことがわかった。

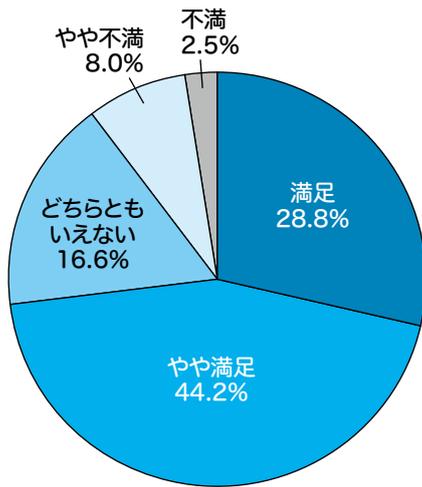
①保育士としてのやりがい



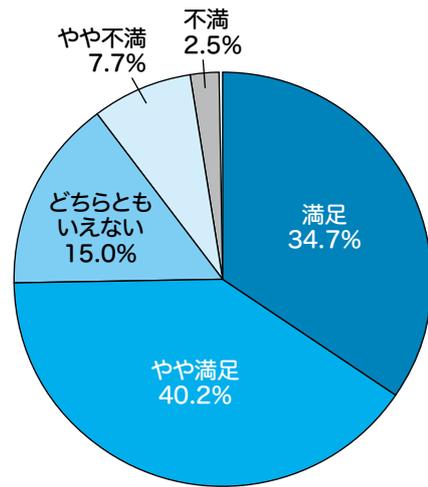
②職場の方針



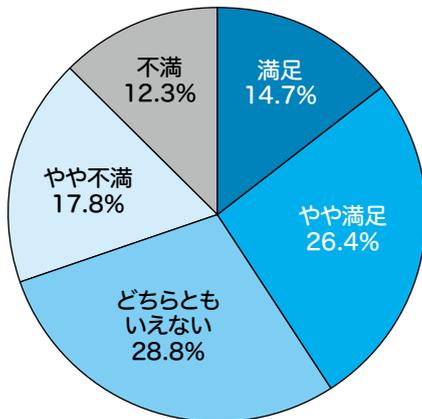
③設備



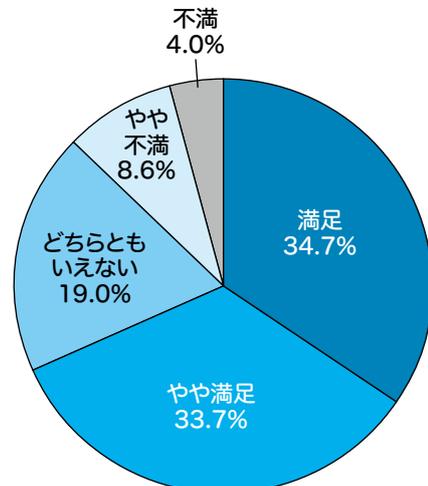
④職場の人間関係



⑤収入



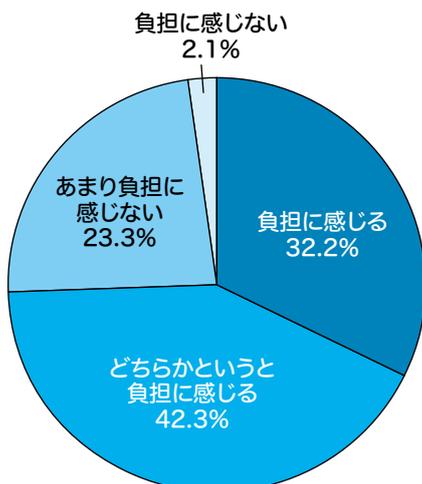
⑥休暇の取得状況



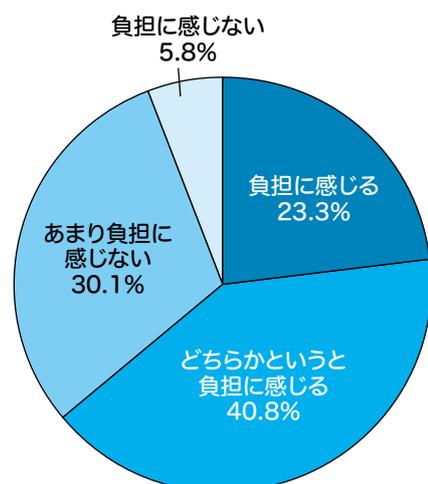
問4 業務の中で負担に感じることをお答えください。(複数回答不可)

「書類の作成」を負担に感じる者が最も多い(約74%)ことがわかった。個別計画等の保育記録は、経験の少ない新任職員にとって苦手意識が強いことがうかがえる。2番目に負担を感じていると回答した者が多かった項目は「行事の運営」である。(約64%)

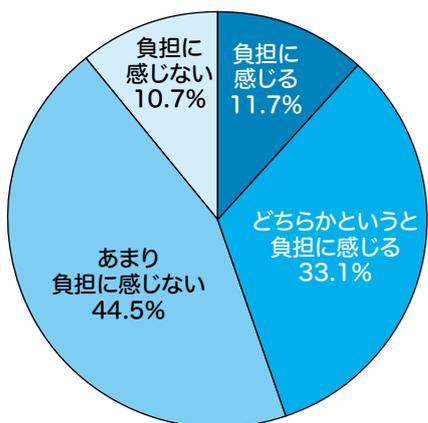
①書類の作成



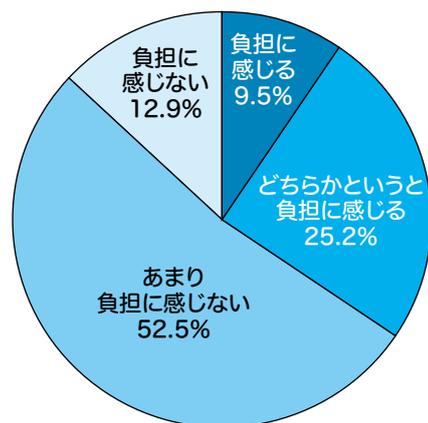
②行事の運営



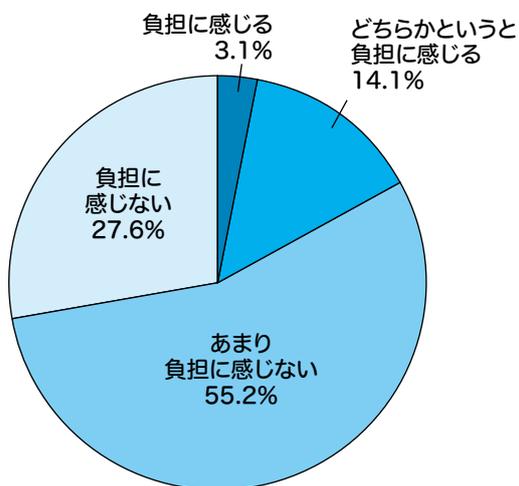
③保護者対応



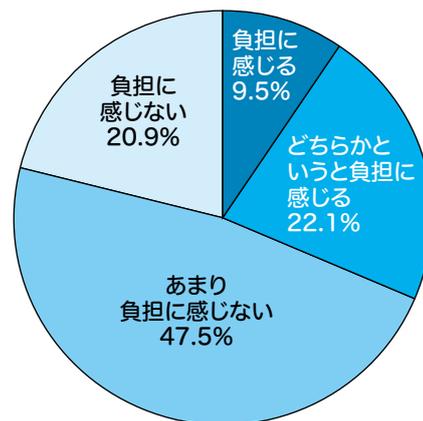
④研修会



⑤清掃(施設内清掃・除草作業等)

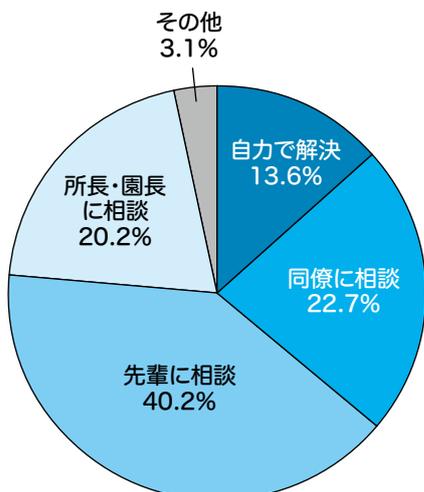


⑥職場の人間関係

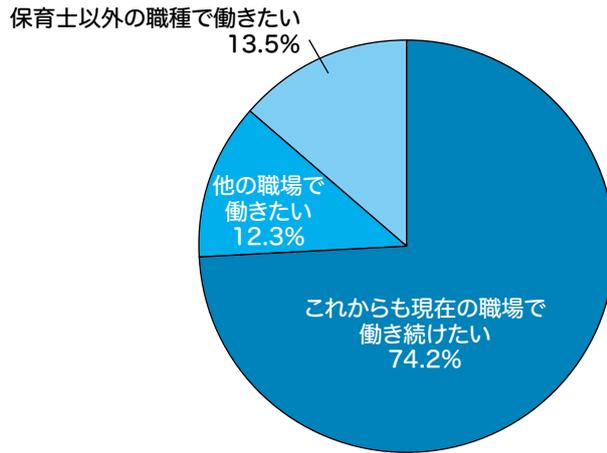


問5 仕事をする上で困った時の対応についてお答えください。(複数回答可)

80%以上の新職員が同僚や先輩、所長・園長といった同じ悩みを共有することができる身近な人に相談している。

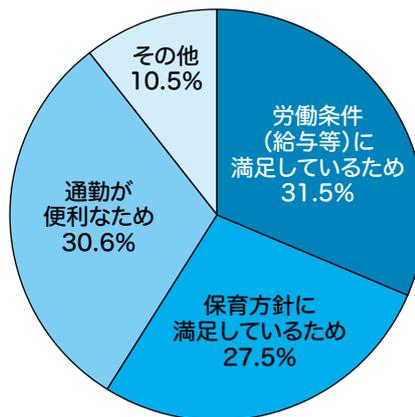


問6 今後の見通しについてお答えください。(複数回答不可)



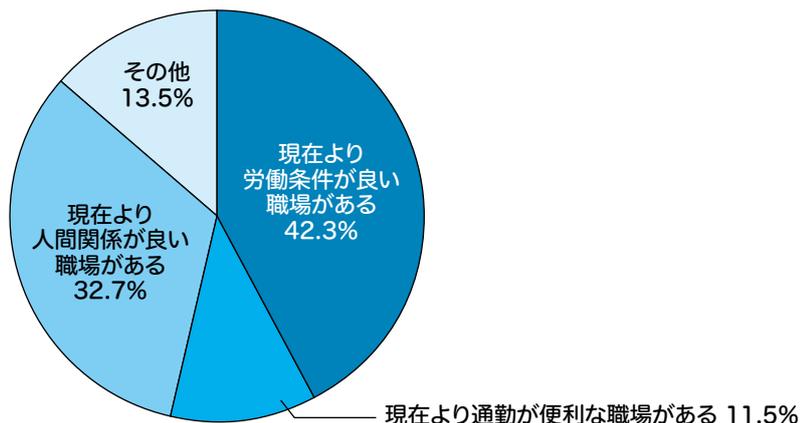
問7 問6で①「これからも現在の職場で働き続けたい」を選んだ方は理由をお答えください。(複数回答可)

「労働条件(給与等)に満足しているため」(約31%)が最も多く、2番目に「通勤が便利のため」(約30%)と考える者が多かった。



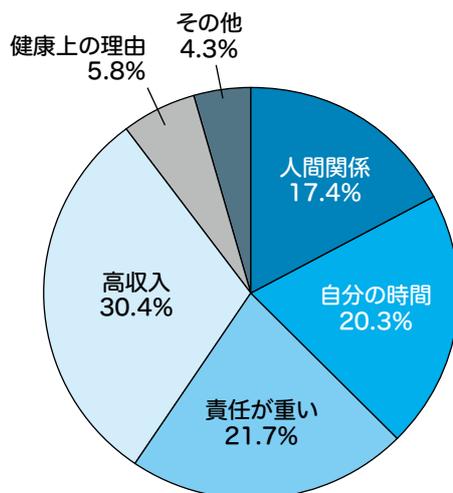
問6で②「他の職場で働きたい」を選んだ方は理由をお答えください。(複数回答可)

「現在よりも労働条件が良い職場がある」(約42%)が最も多く、2番目に「現在よりも人間関係が良い職場がある」(約32%)と考える者が多かった。



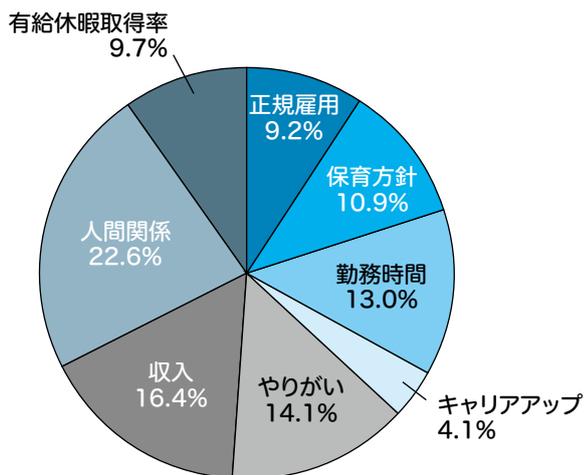
問6③で「保育所以外の職場で働きたい」を選んだ方は理由をお答えください。(複数回答可)

「収入」(約30%)や「責任の重さ」(約21%)、「自分の時間」(約20%)、「人間関係」(約17%)を理由に挙げる者が多かった。



問8 保育士として働く上で最も重視することをお答えください。(複数回答不可)

「職場の人間関係」(約22%)を重視する者が最も多く、2番目に収入(約16%)と考える者が多かった。



4 まとめ

一般的に1年目の職員は、日々の保育に精一杯で2、3年目になるにつれ徐々に余裕が出て、周囲の状況が見えてくる。そのような中で、保育士の仕事を「楽しい」と回答した者は約76%おり、保育士としてのやりがいや職場の方針に概ね満足していることがわかった。その反面、日々の保育に追われる中で「書類の作成」や「行事の運営」には負担を感じている者も多く、保育以外の業務で過度な負担がかからないよう周囲がサポートする必要がある。

また、問8で保育士として働く上で最も重視することに「人間関係」を挙げた者が最も多いにもかかわらず、問6で現在の職場で働き続けたい理由に「人間関係の良好さ」を挙げた者は1名もいなかった。これは、新任職員にとって人間関係は離職や転職の理由にはなっても、良かったからといって働き続けるうえでの理由にはならないということが考えられる。新任職員が考える今後の見通しについては、全体の約25%が「他の職場で働きたい」「保育所以外の職場で働きたい」と考えているが、経験年数別の傾向を探るため下図のとおり再集計した。

【経験年数別の今後の見通し】

	現在の職場で働き続けたい	他の職場で働きたい	保育所以外の職場で働きたい	合計
1年目	101名	10名	11名	122名
	83%	8%	9%	100%
2年目	79名	13名	15名	107名
	74%	12%	14%	100%
3年目	62名	17名	18名	97名
	64%	18%	19%	100%

1年目の職員は、83%が現在の職場で働き続けたいと考えているものの2、3年目になるにつれ割合が低下しており、3年目の職員に至っては37%が他の職場や職種への転職を考えていることがわかった。

その理由については、1年目の職員が「人間関係」を理由に挙げた者が最も多かったのに対して2、3年目になるにつれて労働条件(給与等)や自分の時間、保育に自信が持てないと答える者が多くなった。

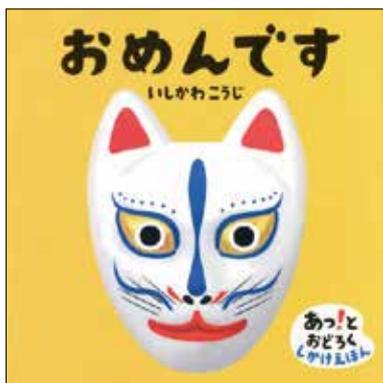
このことから、特に1、2年目の職員に対しては人間関係やコミュニケーションを意識した支援が必要で、業務に慣れてきた職員に対しては魅力あるキャリアプランを示すことや、将来を見据えた労働環境の整備を行う必要があると考えられる。



おすすめの本



おめんです



【作】いしかわ こうじ
【出版社】偕成社

きつねのお面に鬼のお面、動物たちが色々なお面をつけて登場する仕掛け絵本です。お面の絵がリアルで、レトロで、とっても魅力的で、引きつけられてしまいます。仕掛けをめくると目が少し動いたように見え、なんだか生きていくようで、大人でも「ドキッ」とすることも!!小さい子は、ちょっぴりこわそうに・・・でも、興味津々で見えています。赤ちゃんからみんなで楽しめる仕掛け絵本です。

うんちしたのはだれよ



【作】ヴェルナー・ホルツヴァルト
【絵】ヴォルフ・エールブルック
【訳】関口裕昭
【出版社】偕成社

もぐら君は自分の頭にウンチを落とした犯人を捜して歩き、出会った生き物たちに、「ねえ きみ ぼくのあたまにうんち おとさなかった?」と聞いて回ります。ハト、ウマ、ウサギ・・・どの動物も「あたしだったら こうするわ!」とウンチをひって見せ、自分ではないと言い犯人はなかなか見つかりません。しかし、ついに、誰のウンチかを知っている意外な生き物に出会い犯人が判明!!出てくる色々な生き物の表情に笑ってしまい、ウンチにも興味がわくととても楽しい絵本です。

コッコさんのおみせ



【作・絵】片山 健
【出版社】福音館書店

コッコさんはお家で、一人でお店屋さんごっこを始めました。しかし、お客さんはだれも来てくれません。お父さんは新聞を読んでいるところ、お兄ちゃんは巨人になって戦っている最中、お母さんは料理中。そこで、コッコさんは出前をすることにしました。おかつ頭のコッコさんが可愛く、描かれている家の中の様子も少し散らかっているところに、共感。絵を見ているだけでなんだかほっとする絵本です。最後に、ご飯ができてみんなで食べているシーンもおもしろそうで嬉しくなります。

※令和2年度 保育問題対応協力金 合計 900,000円

ご協力ありがとうございました。

今年度、皆様にご協力いただきました「保育問題対応協力金」は上記のとおりとなりました。本協力金は、全国保育協議会へ送金し、保育制度の充実強化を目指すために活用させていただきます。

【編集後記】

2年間「えひめの保育」の発行に携わらせていただきました。会員の皆様、事務局の皆様には、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

総務広報部会の活動をおとして、様々な先生方の保育に対する熱い志を掲載させていただきました。

令和2年度は、新型コロナウイルスウィルス感染症の流行や拡大により、キャリアアップ研修もオンラインングでの受講となりました。保育環境・研修環境が変化する今日ですが、これからも多様性を持って魅力ある機関誌の発行に務めていきたいと思えます。今後も会員の皆様のご協力をより多くお願いいたします。